Publisher's Review
パブリッシャーズ・レビュー
●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●

白水社の本棚

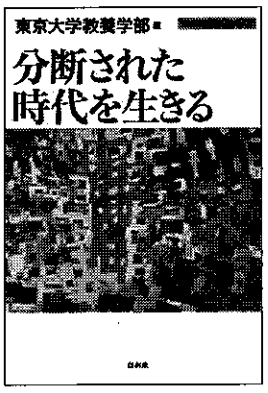
No.190　2019年　秋号
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 ／ tel.03-3291-7811 ／ www.hakusuisha.co.jp/

■2019年8月～2019年10月頃の新刊 2～6面　■「ことば紀行・コルシカ語」渡邊淳也 6面
■連載「江戸の残像」井田太郎／「ヨーロッパ綺想庭園めぐり」桑木野幸司 7面

front page essay

万葉ポピュリズムを憂う

品田悦一



『知のフィールドガイド　分断された時代を生きる』
（東京大学教養学部編・白水社刊）
品田悦一「『万葉集』はこれまでどう読まれてきたか、これからどう読まれていくだろうか」を収録。
定価2420円（本体2200円）
ISBN978-4-560-09564-5

『万葉集』の作者層が「天皇から庶民まで」にわたるというのは、近代国家建設期に、国民的一体感の醸成という国家的課題に沿って作為された想像、幻想である。そのことを私はもう二十年も前に実証し、『分断された時代を生きる』（白水社、二〇一七年）にも寄稿した。

ところが、この古臭い幻想を早口でまくし立てた男がいる。耳を疑うそばから奉祝ムードが拡がり、次々に便乗本が刊行された。東歌は民謡であるなどと、とっくに潰えた説を蒸し返す輩まで現れたではないか。おいおい、改元したと思ったら、昭和に後戻りしたのかい？

東歌は巻十四に二三〇首が載る。あからさまな性愛表現など、『万葉集』中の異彩と評すべき歌群だが、すべて定型の短歌であって、字余りの様相までが都の貴族たちの作とまったく同一の法則に支配されている。短歌という貴族の詩形に、この詩形が許す限りで特異な内容を盛った歌々、それが東歌なのだ。

足の音せず行かむ駒もが葛飾の真間の継橋止まず通はむ　（三三八七）

〈足音を立てずに進む馬がなにものか。そうすれば葛飾の真間の継橋を絶えず行き来できるだろうに〉という一首。「継橋」は橋脚に板をさしわたしただけの簡易な橋。恋人の家に通うとき音が立って、付近の住民に気づかれるのが心配なのだろう。

こんなふうに馬で出歩く様子を詠んだ歌が、東歌には八首ばかりある。では、奈良時代の庶民にとって馬は日常的な乗り物だったのだろうか。

誰でも思いつくのは、馬の値段を米価で換算する方法。天平十年（七三八）の「駿河国正税帳」に載る伝馬購入費をもとに計算すると、現在の貨幣価値で約四十万円から七十万円という結果が出る。が、米は今よりはるかに高かったはずだから、あまり参考にはならない。

それに、当時の庶民は今の庶民よりはるかに貧しかった。半世紀も前の研究だが、正倉院文書の天平二年安房・越前両国「義倉帳」を分析した竹内理三は、農村の九八パーセントが朝廷公認の「貧戸」だったと指摘した（『万葉集大成5』一九五九年、平凡社）。また加藤静雄は、馬一頭の価格を約一貫文と概算したうえで、資財総額が一貫文に満たない戸が実に八七パーセントを占めていた事実から、馬のある生活はごく一部の富裕層、具体的には豪族層のものだったろうと推定した（『万葉集東歌論』一九七六年、桜楓社）。的確な推定だと思う。

いいや、乗馬を詠む八首は例外で、大部分はやはり民謡なのだ、と言い張る向きのために付言しよう。右の「足の音せず」の歌でもそうだが、東歌には、

鎌倉の見越の崎の岩崩の君が悔ゆべき心は持たじ　（三三六五）

信濃なる千曲の川の細石も君し踏みては玉と拾はむ　（三四〇〇）

のように、小地名に大地名を冠する表現（地名重畳）が目立つが、地元の人どうしでこんな物言いをしていたとは思えない。相手に土地勘があれば、ただ「真間」「見越」「千曲の川」だけで通じるはずで、わざわざ「葛飾の」「鎌倉の」「信濃なる」などと付け足すまでもない。

ちなみに、東京大学には主なキャンパスが二つあって、私はふだん駒場キャンパスに勤務しているが、たまには会議などで本郷キャンパスへ出向く。そのとき同僚に「文京区の本郷へ行く」などとは決して言わない。ただ「本郷へ行く」と言う。本郷キャンパスの教職員も駒場へ出向くとき「目黒区の駒場へ行く」などとは言わないだろう。

地元民どうしの物言いらしくないという点では、

相模嶺の小峰見そくし忘れ来る妹が名呼びて我を音し泣くな　（三三六二）

なども同様だ（国名提示）。相模国には多くの山があり、それぞれ固有の名があったはずなのに、その多様性を消去して〈相模の嶺〉と一括してしまう荒っぽさは、他国人の発想か、さもなければ他国人を相手にした場合の発想に相違ない。

そのむかし修士論文でこの問題を取り扱ったとき、こういう地名表現が近世以降の民謡にも頻出するものかどうか、実例に当たってみた。東歌には地名重畳が三八例、国名提示が三五例あって、重複例（右の「信濃なる」の歌など）を差し引くとつごう五四例と、全二三〇首の四分の一弱にのぼる。他方、近世以降の民謡集の場合、該当例の比率は比較的高いものでも二パーセント程度、低いものでは零という状況であった。

かくて話題の焦点はやはり豪族層に絞られてくる。都から赴任してくる国司らのもと、郡司として行政の末端を請け負っていた彼らが、短歌という都の手ぶりを見よう見まねで試作しては、宴席などで国司らに披露したのだろう。東国風の短歌、東歌はそうやって生まれた。

豪族も農民ではある。だが、馬に乗り、貴族文化を享受する人々は、断じて庶民ではない。

最低賃金を抑えたまま非正規労働者を増やす一方、消費税を値上げして庶民の生活を圧迫する政治家が、庶民の歌まであると言って『万葉集』を持ち上げてみせる魂胆は見え透いている。「美しい国、ニッポン」のために犠牲になれというのだ。憲法に謳われた基本的人権を割り引く策動も始まっている。たぶらかされてはいけない。

◇しなだ・よしかず　一九五九年生。専攻は上代日本文学。東京大学文学部卒、同大学院人文科学研究科博士課程修了。現在、東京大学教授（大学院総合文化研究科）。著書に『万葉集の発明』（新装版・新曜社）、『斎藤茂吉』（ミネルヴァ評伝選）、『「国書」の起源――近代日本の古典編成』（齋藤希史との共著、新曜社）など。

愛書狂

「田辺聖子さんが亡くなって、とても淋しい」と書くのは瀬戸内寂聴。「朝日新聞」連載の随筆「寂聴　残された日々」の二〇一九年六月一三日掲載分から。田辺聖子は本年六月六日に九一歳で逝去。享年九一を追悼する歳上の作家（九七歳）があり得ることに驚きだ。大変な長寿の時代になったものだ▼「紅葉が三十六歳、独歩が三十七歳、緑雨が三十七歳、子規が三十五歳、樗牛が三十一歳、梁川が三十四歳などと並べてくると、これらの人々の残した仕事が質量ともに一流のもので（中略）、彼らの短命にいまさらながら驚きます」と書いたのは文芸評論家の中村光夫。昭和三十六年一月発表の「年齢」という文章で、中村は五十歳▼中村曰く、長命を保った作家でも、大体三十代に作風や特色は出来上がっていた。大正に到ると、「文壇はさらに青年中心になり、作家は二十代でそれぞれの代表作を書いてしまい、惰性で文業を存続させる例もあったのだ。長生きも芸のうち、というが短命も芸と言えよう▼日本文学では古来、マイナーポエットと呼んで、短命の詩人や作家を贔屓にする風潮がある。啄木、中也、立原、八木重吉、作家では梶井、中島敦など、もっと長生きして円熟した姿が想像できない。透明な宝石のように、小さいながら世界がすでに完結しているからだ。死病だった結核がほぼ根絶し、昭和後半から夭折が許されなくなった。そのおかげで、我々は手元で光る硬質で小さな文学世界の誕生を失った。少し淋しい気がする。（野）

明石書店
パトリック・ヴェイユ著　宮島喬、大嶋厚、中力えり、村上一基訳
フランス人とは何か
国籍をめぐる包摂と排除のポリティクス
国籍とは何か？その意味を問い返す国籍法の近現代史　4500円
佐藤文香監修　一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著
ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた
あなたがあなたらしくいられるための29問
話題沸騰！大学生の視点からのジェンダー「超」入門！　1500円
見えない性的指向 アセクシュアルのすべて
誰にも性的魅力を感じない 私たちについて
ジュリー・ソンドラ・デッカー著　上田勢子訳　たちまち重版　2300円
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
http://www.akashi.co.jp/ 〈税別〉

「国書」の起源　近代日本の古典編成
品田悦一、齋藤希史 著　「国書」という語は、明治国民国家の教育体制の構築期に産まれた。「国書」の起源に国学、国文学、漢学などから多面的に迫る。　A5判240頁・2800円
万葉集の発明　新装版　国民国家と文化装置としての古典
品田悦一 著　万葉集などの古典が、明治近代の国民国家の文化装置として成立したことを、文学史を博捜して緻密な論理で跡づけた名著、待望の復刊。　四六判360頁・3200円
新曜社　東京神田神保町3-9　電話 03-3264-4973
http://www.shin-yo-sha.co.jp/〈税別〉

奇跡の集落 やねだんを取材した日々
山縣由美子 著
行政には頼らない！
地域再生から創生へ、
300人の鹿児島の集落に、
笑顔とパワーが弾ける。
報道しつづけた
地元TVキャスターの、
“やねだん”との15年。
四六判 並製 208頁
定価2,000円+税
羽鳥書店
113-0022
東京都文京区千駄木 1-22-30-502
Tel 03-3823-9320 Fax 03-3823-9321
www.hatorishoten.co.jp

少年少女向けのメディアを比較分析
「少年」「少女」の誕生
今田絵里香著　少年少女雑誌と「少年」「少女」は、どのように生まれて、どのように変遷したのか。　520頁A5判＊4000円
〈カワイイ〉は進化し続ける
ポスト〈カワイイ〉の文化社会学　好評重版
吉光正絵／池田太臣／西原麻里編著●女子たちの「新たな楽しみ」を探る　330頁四六判＊3500円
ミネルヴァ日本評伝選
熊谷守一　古川秀昭著
見えない生を追い求めた画家。
四六判上製カバー288頁3200円
ミネルヴァ書房
京都市山科区日ノ岡堤谷町1 ☎075-581-0296
税別／ http://www.minervashobo.co.jp/

バルザック 三つの恋の物語
安達正勝訳／木原敏江画
バルザックの「恋」にまつわる三つの短編を、『物語 フランス革命』の安達正勝による訳と、『摩利と新吾』の木原敏江の描き下ろしイラストでおくる、豪華美麗なイラスト絵本！　2400円
いやいやながら ルパンを生み出した作家 モーリス・ルブラン伝
ジャック・ドゥルワール／小林佐江子訳
《アルセーヌ・ルパン》の生みの親、モーリス・ルブランの初の伝記。ルパン研究の第一人者がついに成し遂げた、ミステリ・ファン待望の決定版。　3600円
ジーヴスの世界
森村たまき　ジーヴスとウッドハウスの愉快な世界を解説した、入門者からマニアまで楽しめる最高のガイドブック。写真図版多数。　2400円
国書刊行会 ☎03-5970-7421 FAX03-5970-7427
〒174-0056東京都板橋区志村1-13-15
https://www.kokusho.co.jp（税別価）